この人と30分

チャンスを生かせ

日本ハム　**柏原純一選手**

シーズン・オフを利用して帰熊中の、プロ野球日本ハムの柏原純一選手に〝ご登場〟を願った。

昨季、初めてキャプテンとしてプレーしたため、プレッシャーがあったと話すなかにも、リーグ優勝の原動力となったため自然と顔もほころぶ。また、ホームランバッターじゃなく、チャンスを生かす、チャンスに強いバッターを目指すとも。

昭和二十七年六月十五日、八代市日奈久生まれ。日奈久小・中学、八代東高校から、四十六年ドラフト八位で南海入団。五十三年に現在の日本ハムに移る。一塁手で四番、昨季の成績は、打率三割一分、ホームラン十六本、打点八十一。背番号六、右投げ、右打ち。身長百七十九センチ、体重八十二キロ

日本ハム、東京都港区六本木六―一―二〇、六本木電気ビル

リーグ優勝

昨季は、チーム（日本ハム）がリーグ優勝し、本当にうれしかった。プレーオフ（前期優勝のロッテと後期優勝の日本ハムとの優勝決定戦）の下馬評ではロッテが強いなんて言われていましたからね。だけど、そんなふうに言われると反発心がでますよ。それで、私自身はもちろん、チーム全体が、〝やるぞ〟という気持ちになり一丸になって、プレーオフにのぞんだんです。そうしたら、うまい具合に勝てまして。やはり、〝やるぞ〟というガッツがなくてはダメですね。

ご存じのとおり、パリーグは前・後期あるんですが、プレーオフに勝たなければ意味がありませんからね。

まったく未知の世界だったんです。そのうえ、今シーズンは初めてキャップテンとしてプレーしましたから、プレッシャーもありましたし、一日一日を一生懸命、大事に戦うように心がけました。

日本シリーズでは、巨人と対戦したわけですが、テレビの野球放送は、巨人戦が多いでしょう。だから、巨人ファンが多いでしょうね。子供の頃は私もそうだったんですよ。（笑い）

初めて、江川選手と対戦したんですが、直球は速くコントロールはいいと聞いていましたが、まぁストライクゾーンにきたら打てるだろうと、気楽な気持ちでバッターボックスに立ったのが良かったんでしょう。一回戦の四回にはホームランを打てました。真芯でとらえ、レフト上段に打ちこめました。あのようなあたりは、シーズン通してもそうないですね。彼とはタイミングが意外とあったんですね。

チャンスを生かすバッター

ホームランバッターじゃないんですよ。目指しているのは、ツーアウト・ランナーセカンドで、ヒットで還せるようなバッターなんです。ホームランを打つのは、ソレイタだとかそういう選手にまかせているんです。ホームランを四十本も五十本も打てませんからね。チャンスに強い、チャンスを生かせるようなバッターが目標です。

昨季は、ホームラン十六本、打点八十一、打率が前期二割五分九厘、後期三割六分四厘と前期がものすごく悪かったんです。前期で三割ぐらい打っていたら首位打者をとってましたよ。

高校時代

ところで野球を本気で習い始めたのは、中学生になってからです。それまで近所のお宮さんの境内とか、稲刈りあとの田んぼでソフトボールなどをよくしていましたよ。遊ぶ場所にはことかきませんでしたね。熊本はそうないでしょうが、都会では気軽にソフトボールや野球をするような、公園などの場所はありませんよ。学校の運動場もコンクリートなんてのがありますから。その点では、熊本の子供たちはまだいいですね。

中学ではポジションはピッチャーだったんですが、本当は好きではなかったんです。でも、ピッチャーは皆んなが一番注目するポジションだから、中学生の心境としては、まぁまぁだったんですよ。

高校のときもピッチャーをしました。このときは、一緒に入部したものでピッチャーをやった経験のあるものがいなかったのでしかたなくやったんです。気持ちとしては、内野手、サードがやりたかった。

ピッチャーは、足腰が強くなくてはいけないということで、投球のほかにランニング、ダッシュとか、いろいろと練習内容も豊富でハードでした。鍛われましたよ。

昭和四十五年、春の選抜高校野球大会に出場しました。甲子園では、開会式のすぐあと第一試合だったんですが、試合内容は全然覚えていませんでしたよ。ただ、プレーボールがかかり、点数が二対〇で負けたことだけ。ヒットを何本打たれたのか、また、うちのチームが何本打ったのかわかりませんでした。田舎の高校から出場して、甲子園の大観衆を前にしてあがってしまったんですね。だから、あっという間に終わったという感じですね。藤崎台や九州大会の平和台ではあがらなかったんですが、甲子園には一種独特のふんい気がありますからね。

ドラフト八位

昭和四十六年、南海からドラフト八位で指名をうけ入団したんです。当時は何人でも指名できましたから。今年は五人ですかね。今だったらプロに入っていませんね。ボクシングの選手か、映画俳優になってたかもしれませんね。（笑い）

みんなに笑われるんですが、入団したときはプロ野球に二軍があるのを知らなかったんです。本当に。だって、テレビじゃグランドとベンチしか映さないし……。合宿にはいったら知らない選手がいっぱいいるんですよ。聞いたら二軍だというんですよ。これがまた半分以上いるんですから。ショックでしたよ。（笑い）

自主トレーニングから参加し、本格的な練習に入ったんですが、参加してみて、これじゃダメだと思いましたよ。体力はついていかないし、パワーはないし、スピード・コントロールもないし、あるのは若さだけという感じだったんです。一年目は二軍の試合（ウエスタンリーグ）にも出してもらえなかった。

あるとき、野村監督が二軍選手を全員集めて、「何か一つでも監督の目にとまるようなことがなければ、君たちは二軍で終わってしまうぞ。投げる・打つ・走る・なんでもいいから。」とハッパをかけられたんですよ。それじゃ何が